

第2章 第3次推進計画における取り組みの成果と課題

第3次推進計画では、大人が子どもの読書活動推進の意義を理解し、関係機関が協力しながら本市の子どもの読書活動を支える基盤を整えることが必要と考え、「家庭」「地域」「保育園等」「学校」「市立図書館」が担うべき役割を示し、施策に取り組んできました。

< 成果確認 >

指標		R1年度	R7年度目標	R7年度
本を読むことが好き、 どちらかという好きな 児童・生徒の割合	小学生	92%	94%	93%
	中学生	76%	78%	76%
	高校生	76%	78%	69%
1ヶ月間に2冊以上 本を読む子どもの割合 (電子書籍を含む)	園児	78%	80%	75%
	小学生	93%	95%	92%
	中学生	65%	66%	70%
	高校生	21%	25%	18%
市立図書館のおはなし会 参加人数	子ども・ 大人	752人	850人	476人
市立図書館の児童書(紙芝居含む)の 貸出数(団体貸出含む)		56,020冊	59,000冊	57,794冊

※R7年度欄の「おはなし会参加人数」「児童書の貸出数」は、R6年度数値。

第3次推進計画で掲げた成果指標のうち、目標値に達したのは「1ヶ月間に2冊以上本を読む」中学生の割合のみとなりました。

平均として「読書が好き」な傾向の割合は令和元年度 83%、令和7年度 81%となり、第2次推進計画期間から減少しています。「1ヶ月に2冊以上の読書」の割合は、令和元年度 63%、令和7年度 65%と微増しました。

コロナ禍をきっかけに減少したおはなし会の参加人数は令和元年度並みへの復調は図られず、改善が求められる結果となりました。

1 家庭における取り組みの成果と課題

<取り組み>

- ブックスタート事業※²の実施(平成14年から継続)
- セカンドブック事業の実施(平成23年から継続)
- サードブック事業の実施(平成21年から継続)
- おはなし会などの読書イベントへの参加

<ブックスタート配布実績>

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象人数	216人	166人	195人	156人	153人
配布人数	136人	163人	191人	145人	148人
配布率	63%	98%	98%	92%	97%

第1次推進計画期間中の配布率平均は79%、第2次推進計画期間中は85%、第3次推進計画期間中は89%と4%増加しました。

<セカンドブック配布実績>

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象人数	235人	224人	151人	227人	206人
配布人数	193人	224人	147人	212人	191人
配布率	82%	100%	97%	93%	92%

第1次推進計画期間中の配布率平均は94%、第2次推進計画期間中は93%、第3次推進計画期間中は93%です。

<サードブック配布実績>

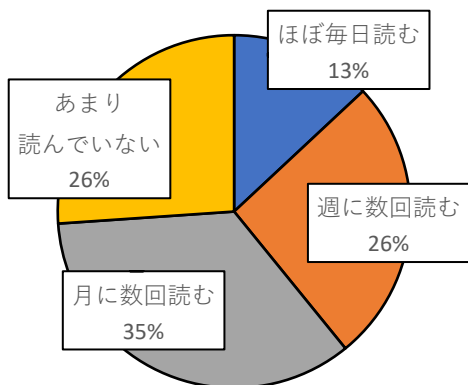
	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象人数	256人	256人	268人	224人	219人
配布人数	256人	256人	268人	224人	219人
配布率	100%	100%	100%	100%	100%

サードブックの配布は、各小学校の協力のもと、配布率100%です。

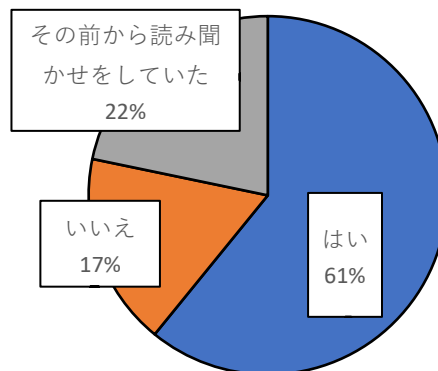
※2 赤ちゃんと保護者の心触れ合うひとときを、絵本を介してつくるよう支援する事業。3ヶ月児に絵本を1冊贈るとともに、保護者に読み聞かせの啓発を行っている。継続事業として、セカンドブック事業(3歳児)、サードブック事業(小学1年生)を実施。

令和7年7月実施の「子ども読書状況調査」によると、ブックスタート・セカンドブックの本で日常的（ほぼ毎日読む・週に数回読む）に読み聞かせを行った園児（年長）の保護者は39%、また61%の保護者が読み聞かせのきっかけになったと回答しています。

ブックスタート・セカンドブックの本で読み聞かせを行いましたか？（当時）

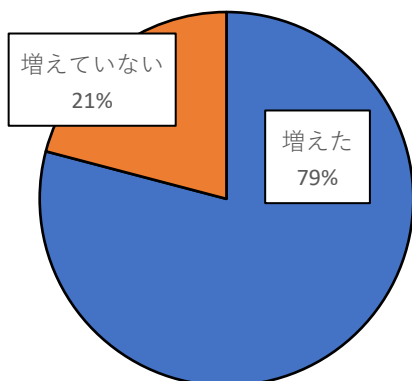


ブックスタート・セカンドブックが絵本を読んであげるきっかけになったと思いますか？

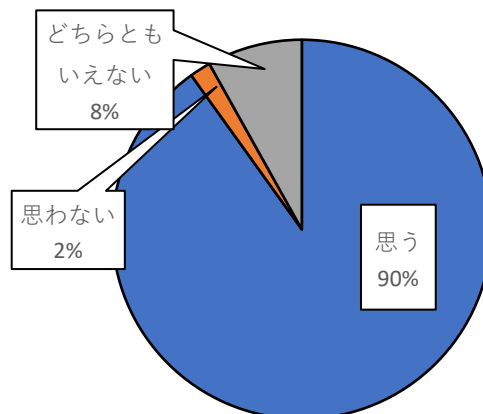


サードブックをもらったことで本を読むことが増えたと答えた児童は79%で、読書のきっかけになっています。ブック事業（ブックスタート・セカンド・サード）を続けると良いと答えた保護者は90%にのぼり、家庭における読書環境づくりに有効です。

サードブックをもらったことで、本を読むことが増えましたか？



ブック事業は、今後も続けると良いと思いますか？



また、「子どもが読書を好きになるために、保護者として何が必要だと思うか」という保護者に対する設問には、「幼い頃からの読み聞かせ」に次いで、「家族の読書習慣」という回答が多く寄せられました。時間の確保が難しい中でも、家族の読書習慣が重要だと考えられていることがわかります。

< 成果 >

- ブック事業の配布率は高水準を保ち、多くの家庭に本を届けることができた。
- ブック事業をきっかけに、家庭における読み聞かせや読書の機会を創出した。

< 課題 >

- 子どもと保護者が本を介して楽しい時間を過ごすおはなし会等のイベントへの参加者数の増加。
- ブック事業を契機とした、さらなる読み聞かせの習慣化。
- 家族の読書活動の促進。

2 地域(公民館・児童センター・学童クラブ・たっち※³)における取り組みの成果と課題

< 取り組み >

- 市立図書館の団体貸出や定期巡回団体貸出※⁴の活用
- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充
- 日常的な読み聞かせの実施

令和7年8月に行った「関連機関状況調査」によると、公民館では、子どもたちが読むことのできる本が置いてあるコーナーの設置は 100%にのぼるものの、年齢に応じた図書が充実していると答えた館は 10%にとどまりました。また、子ども向けの読書行事の実施は0%でした。

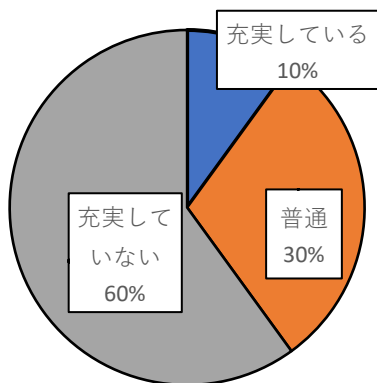
児童センター・学童クラブ・つどいの広場たっち※⁴では、子どもの読書コーナーの設置は 100%、年齢に応じた図書が充実しているとの回答は 29%でした。

また、「子ども読書状況調査」(令和7年)によると、保護者からの子どもの読書活動に関する自由意見として、「子どもが自身で行くことのできる距離で、出張図書館や映画上映、おはなし会などをしてほしい」といった、地域で読書に触れる機会の充実を望む声がありました。

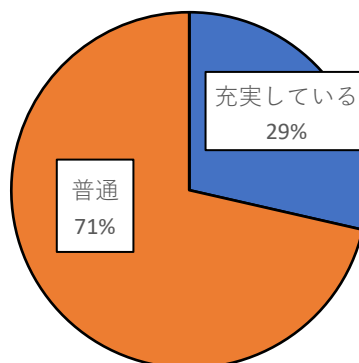
※3 主に乳幼児をもつ親と赤ちゃんが気軽に集い、打ち解けた雰囲気の中で話をしたり、一緒に遊んだりしながら、交流を図るための場所。つどいの広場たっち(山梨市役所内)と、つどいの広場たっち牧丘(牧丘支所内)がある。

※4 市立図書館が、保育園、幼稚園、認定こども園、児童センター等に、対象となる子どもの年齢に合わせた本を毎月(貸出期間1ヶ月間)巡回して貸し出すサービス。他に、施設等の団体利用登録者が市立図書館で図書を選び、1ヶ月間借り受ける「団体貸出」サービスもある。

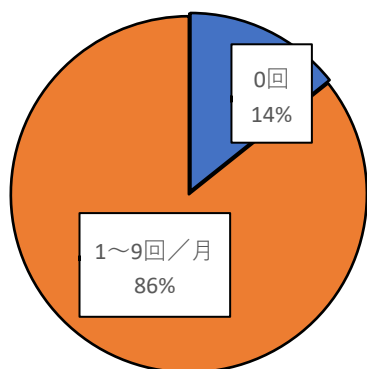
公民館
年齢に応じた図書が充実していますか？



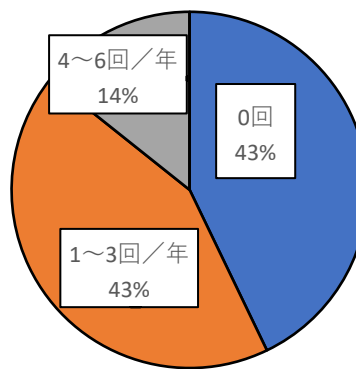
児童センター・学童・たち
年齢に応じた図書が充実していますか？



児童センター・学童・たち
日常的な読み聞かせの実施



児童センター・学童・たち
おはなし会など読書行事の実施



つどいの広場たちでは、図書館ボランティアの協力により、年2回の頻度で読み聞かせおはなし会を開催しています。

< 成果 >

- 読書コーナーの設置や市立図書館の定期巡回団体貸出の受け入れにより、子どもの手が届くところに図書がある環境を整えた。

< 課題 >

- 年齢に応じた図書のさらなる充実、更新。
- 読み聞かせや読書行事の実施。

3 保育園・幼稚園・認定こども園における取り組みの成果と課題

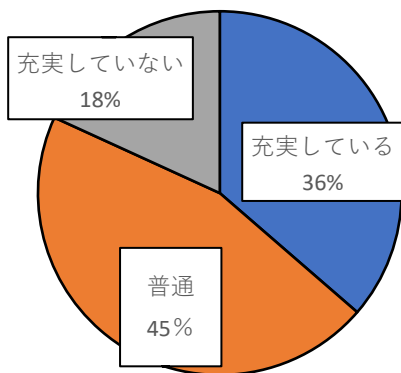
<取り組み>

- 子どもたちの読書コーナーを充実させ、年齢に応じた図書の充実
- 市立図書館の団体貸出や定期巡回団体貸出の活用
- 日常的な読み聞かせの実施
- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充
- 行事の中で大型紙芝居やパネルシアターなどの積極的利用
- 保護者に対する家庭での読書の啓発
- 図書の運搬に係わる人員及び手段の整備

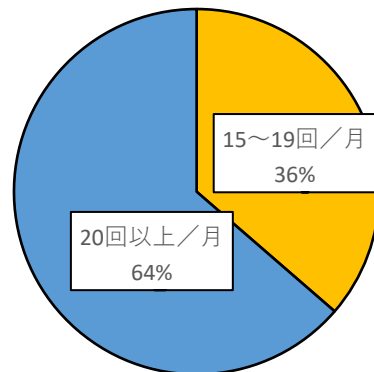
「関連機関状況調査」によると、子どもの読書コーナーの設置は100%、年齢に応じた図書が充実していると答えたのは36%でした。読み聞かせは、月に15～19回と答えた園が36%、月に20回以上と答えた園が64%であり、日常的に行われています。

読書行事の実施は0回が64%と最も多く、次いで年に1～3回が18%となりました。大型紙芝居やパネルシアターなどの利用は「積極的に利用した」と「利用した」を合わせると91%となり、子どもたちに楽しんでもらうための取り組みが窺えます。

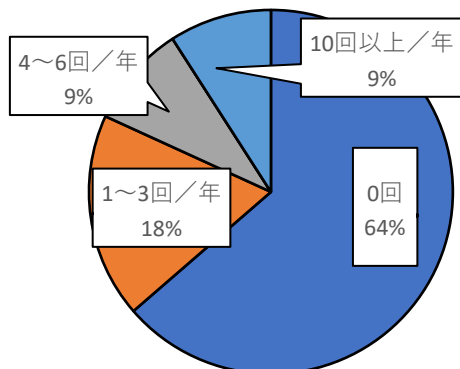
年齢に応じた図書が充実していますか？



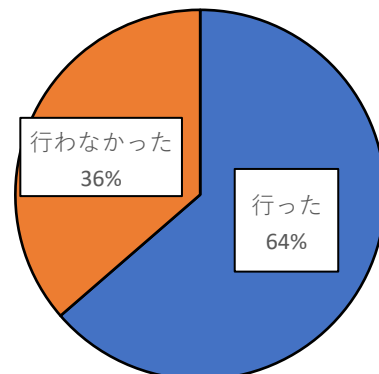
日常的な読み聞かせの実施



読書行事の実施



保護者への子どもの読書活動啓発



家庭での読書の啓発を行ったと答えた 64%の園では、おたよりを活用したり、月刊誌を家庭に貸し出したりと、工夫した取り組みが見られました。

図書の運搬に係わる人員及び手段の整備については 91%の園が十分と回答しています。

< 成果 >

- 読書コーナーの設置や市立図書館の定期巡回団体貸出の受け入れにより、子どもの手が届くところに図書がある環境を整えた。
- ほぼ毎日の頻度で読み聞かせをしており、日常的に読書の機会を設けた。

< 課題 >

- おはなし会などの読書行事の実施及び拡充。

4 学校における取り組みの成果と課題

< 取り組み >

- 魅力的な蔵書の充実
- 図書資料のデータベース化(令和5年)
- 学校司書の充実や司書教諭と協力して図書館運営を行える体制づくり
- 児童生徒へのレファレンスサービス^{※5}の実施
- 各種ブックリストの^{※6}作成
- 読み聞かせの時間や図書集会など読書活動の機会の充実
- 図書委員会の活性化
- 朝読書を通じた読書を楽しむ仕組みづくり
- 親子読書や家読^{※7}の活動推進
- 小・中学校に読み放題型電子図書館の導入(令和6年)

※5 利用者からの調査依頼に対して、必要とする情報(回答)や情報源を効率よく入手できるよう支援するサービス。

※6 ある基準で選択され、本を薦めたり、紹介するために作られた目録。

※7 家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深めることを目的とした読書運動。子どもを中心に家族で同じ本を読み、感想を言い合うなど。

第2次推進計画期間に図書資料がデータベース化されていたのは高等学校の2校のみでしたが、第3次推進期間中の令和5年には、全ての小中学校においてもデータベース化され、図書資料の有効利用が図られました。

図書館運営の体制づくりでは、85%が整った体制で行えたとの回答ですが、体制が不十分と答えた学校では、「時間がとれない」「図書館司書の勤務状況(週3日)の為、活動が限られている」といった声があがりました。

レファレンスサービスは92%の学校で実施しており、ブックリストは77%の学校で作成しています。

読み聞かせについては、未実施の38%は中学校と高等学校であり、すべての小学校で実施されています。令和元年度の調査時よりも実施回数が増え、年齢に応じて機会が作られています。

図書集会などの読書行事の実施は令和元年度調査時より大きく下回りました。学校では行事精選の方向から実施が減少傾向にあります。

<図書集会(読書に関する行事)の実施率>

	R1		R7	
実施した	12校	92%	5校	38%
未実施	1校	8%	8校	62%
	13校	100%	13校	100%

図書委員会活動の活性化に取り組んだ85%の学校や、朝読書のさらなる展開を実施した46%の学校では、クイズなど遊びに絡めたものや展示を行ったものなど、工夫した取り組みがなされました。

親子読書や家読については、前調査時よりも実施率が高くなりました。

<親子読書または家読の実施率>

	R1		R7	
実施した	6校	46%	8校	62%
未実施	7校	54%	5校	38%
	13校	100%	13校	100%

<成果>

- すべての学校で図書資料がデータベース化し、活用・管理の向上が図られた。
- 電子図書館の導入により、新たな読書形態・機会を提供した。
- 親子読書や家読の実施により、家庭における読書機会の提供及び読書啓発となった。

< 課題 >

- 電子図書館導入による読書活動及び学校図書館活用への影響の検証及び相乗効果を生み出す活用の検討。

3 市立図書館における取り組みの成果と課題

< 取り組み >

- ブックスタート、セカンドブック、サードブック事業
- 定例おはなし会及び講演会などの読書イベントの開催
- 定期巡回団体貸出の実施
- 図書館見学や職場体験などの受け入れ

< おはなし会種類 >

おはなし会 名称	ボランティア グループ名	開催頻度 (毎月)	対象	開始年
チェリー	くれよん	第2 火曜日	乳幼児	H13
くれよん		第4 土曜日	幼児～小学低学年	H16
ぐれーぷ	ぐれーぷ	第2 日曜日	幼児～小学低学年	H28
ぐれーぷ		第4 火曜日	乳幼児	
ぴーち	ぴーち	第3 日曜日 (隔月)	親子(英語おはなし会)	H29

< おはなし会開催状況 >

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
開催回数	6回	26回	42回	44回	45回
参加人数	52人	288人	336人	406人	476人
平均参加人数	9人	11人	8人	9人	11人

※令和2年度:新型コロナウイルス感染症拡大につき4月～12月まで閉館

※令和3年度:新型コロナウイルス感染症拡大につき8月～10月まで閉館

< 講演会やワークショップなどの読書イベントの開催 >

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
開催回数	1回	未実施	1回	1回	1回
参加人数	87人	-	45人	77人	73人

※令和3年度:新型コロナウイルス感染拡大防止への協力要請により未実施。令和4年度へ延期。

平成13年度からスタートした図書館ボランティアによるおはなし会については、ボランティアの協力のもと、子どもと保護者が本に親しむ機会を継続して提供しています。対面でのふれあいの場となるおはなし会にとって、新型コロナウイルスの流行が与えた影響は多大なものでした。

令和元年度は752人だったおはなし会の参加者数に対し、令和6年度は476人となっています。徐々に復調傾向ではあるものの、外出自粛によって一度おはなし会への参加が習慣から外れてしまった、または参加したことがない・知らないという保護者に向けて、呼びかけの強化が必要です。

また、平成22年度から継続している定期巡回団体貸出は、保育園など各施設に毎月30冊の図書を貸し出しています。日々の保育の中で読み聞かせに使われ、園の読書環境の整備に大きな成果があります。令和4年度からは小規模校(岩手小学校、八幡小学校、笛川小学校、笛川中学校)へ隔月の定期巡回貸出も実施し、読書環境のさらなる整備を目指しています。

<定期巡回団体貸出受入施設数>

R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
22	23	29	28	28

<成果>

- おはなし会や講演会等の開催により、継続的に子どもと保護者が読書に親しむ機会を提供した。
- 定期巡回団体貸出や団体貸出により、読書環境整備の支援を行った。

<課題>

- おはなし会やイベントへの参加者数増加。
- 情報発信(読書啓発、イベント周知、資料情報)の強化。
- 地域への読書機会提供の支援。
- 家庭への読書活動推進の啓発。

6 関係機関との連携状況

- 公共図書館との相互貸借協力によって図書を貸借し、子どもの「読みたい」気持ちにでき得る限り応えた。
- 令和3年に締結した山梨英和大学と包括的連携協定により、読書イベントを通して子どもと大学生との交流がなされた。